

# 子どもと携帯電話

～携帯電話は安全グッズか？～

平野 理華 藤原 典子

もしあなたの家に信条に反する宗教の勧誘が来たとき、あなたは子どもに玄関のドアを開けさせますか。また、「スマップのコンサートの券があるので友達を誘ってみんなで行きませんか」と知らない大人から電話がかかって来たとき、あなたは子どもに取り次ぎますか。現実の生活の中では決してさせないこと、あるいは私たち親がクッションになって子どもに気づかれぬように遮断していることがたくさんあります。しかし、携帯電話がもたらす世界の中では、そのようなことが大人のフィルターなしにダイレクトに子どもたちにつきつけられてしまうのです。

私たちが小学生を持つ親に実施したアンケートでは、親の携帯電話の所持率は 95.6%、子どもについては、「持たせている」と回答したのが 11%、「持たせるつもり」の 7.8%とあわせ、全体の約 2 割が子どもの所持に肯定的な回答を寄せています。実際に持たせる理由のトップは「塾・習い事のため」で 81.6%、「防犯のため」とした人が 21%、その他の理由でも、「共働きのため連絡用として」などという回答もありました（重複回答有り）。これらのことから、小学生に携帯電話を持たせる理由は、子どもが積極的に欲しがるといふより、いつでも連絡をとれる安心感を持つため、つまり親の都合で持たせているというのが実態といえます。

しかし、携帯電話は果たして親が考えるような安全グッズであるといえるのでしょうか。子どもたちにとって特に看過できないものの多くが、メールを含むインターネットの機能から起因していると考え、携帯電話とどう付き合っていけばいいのか、具体的に探していきたいと思います。

## I. 有害情報をどう遮断するか ～不意打ちの衝撃～

### 1. はじめに

携帯電話の安全を考える上で、まず挙げなくてはならないのが、有害情報への入り口となっている迷惑メールについてです。

多くの親は、携帯電話を実際に持っているため、ワンクリック登録での被害など、今更そんなことは承知していることと思われるかもしれません。しかし、実際に即効性のある迷惑メールの回避方法を即答でき

る人は意外に少ないのではないのでしょうか。なぜなら、私たちのアンケートでも迷惑メールを心配する保護者は全体の約半数、そのうちキャリア(注 1)による最近のおおよその迷惑メール対策やその設定方法を知っていると答えたのは全体の 24%に過ぎないからです。また、迷惑メールの先にあるサイトとなると、実態を把握している親はほとんどいないことでしょう。

迷惑メールの対処法として、多くの本や雑誌が「知らない人からメールが来たら開けないで削除するよう子どもに教える」などとしていますが、知人を装っていたり、魅力的な言葉を囁かれ興味本位にクリックしてしまうたぐさんの大人がいるのが現実なのに、子どもにだけそのような安易な対処法で万全とは思えません。

(注1)キャリアとは、ドコモ、au、ボーダフォンなどの携帯電話サービスを行う会社のこと

## 2. 不意打ちという衝撃

昨今、有害サイトの問題が大きくクローズアップされていますが、迷惑メールホルダーの仕分けの充実や、フィルタリング(注2)、レーティング(注3)をかけやすいパソコンよりも、携帯電話からのアクセスの方が実はより深刻だと言えます。なぜなら、携帯専用サイトではパソコンサイト以上により露骨で卑猥な画像・動画、児童ポルノ、明らかに援助交際を暗示する出会い系サイトの掲示板、脱法ドラッグの販売などの情報を提供している場合があるからです。これらはパソコンからはアクセス出来ないことが多いため、サイバーパトロールなどをはじめとする当局の目が届きにくくなっているのが現状です。

また、パソコンでは、検索機能を使って自らの意思でアクセスすることが多いのに対し、携帯電話では、迷惑メールなどを通じてアクセスしてしまい、必ずしも自分の意思ではなくそのような情報に出会ってしまうことが多くあります。いわば、有害情報の「不意打ち」に遭うといっても言い過ぎではないのです。

以前はメール本文に URL が表示されて

おり、出会い系サイトやアダルト画像を配信しているサイトであることが、メールの文面から判断できました。しかし最近では、懸賞応募や友人を装っているものなど手口が多様化しており、大人でも不用意に登録した後で出会い系サイトであると気付いたり、あるいは親切心で「メールアドレスを間違えていませんか」などと返事を返してしまい、さらにこの手のメールを大量に受けってしまうケースが増えています。また、依然としてメールの内容自体が性的な文言を含んでいるものも多く、子どもたちの目に触れさせたくない有害情報でもあります。

不当請求の温床とされているアダルト画像配信サイトでは、ボタンをクリックすると、無料お試しなどとしてアダルトビデオさながらの画像や動画が配信されています。パソコンでは、ウイルスやセキュリティなどの問題から、これらをダウンロードしようとする、「ウイルスに感染する危険性があります」等ポップアップで警告され躊躇しますが、携帯電話の場合はなんの注意喚起もなく、クリックすればいとも安易にダウンロードが開始されてしまいます。

それでも以前は画像自体が荒く、画面も小さいために不明瞭だったのですが、第三世代の携帯電話の登場で、テレビ並みのクリアな動画や画像が展開されるようになりました。そのため、「不意打ち」に遭った子どもたちが受ける衝撃は以前よりずっと大きくなってしまいます。

(注2)フィルタリングとは、アダルトや暴力などの有害情報を含むサイトを閲覧できないようにすることやその機能を目指す。

(注3)レーティングとは格付けのこと。ネットでは、例えばサイトの運営管理者が、ふさわしくない内容であると判断した

場合に、ある決められた法則のもとに、HTML の中に特定の記述を埋め込むなどの手段を講じることなどを指す。

### 3. 迷惑メールをどうブロック？

もっとも基本的なことはアドレスを複雑で長いものにすることですが、キャリアによる迷惑メール対策としては、大きく分けると以下の三つようになります。

1. 特定のメールアドレス又はドメイン(注4)をブロックする
2. 指定したメールアドレスからのみ受信する
3. 同じキャリア内のみ受信する、あるいはパソコンからのメールを拒否する等の選択受信

これらを組み合わせると、例えばドコモの利用者が、ドコモからのメールは全て受信し、パソコンや au、ボーダフォンからのメールは全て拒否する、あるいは特定のメールアドレスからのみ受信するというような策がとれます。

ほかにも、大量のメールを一度に発信している場合や大きなサイズのメールは拒否したり、メールの一部だけを受信した後、最後まで受信するかどうか選択できるようにするなどの設定があり、キャリアによって様々な対策が講じられています。

但し、現実的には1については迷惑メールを発信している事業者が次々とアドレスやドメインを変えてくるため、あまり効果はありません。小学生や携帯ビギナーであれば、2がもっとも効果的です。親しくなった友人については、親が都度アドレスを追加することで交友関係を把握できるメリットもあります。実はこの方法については、後になってからでは子どもが嫌がる可能性

も高いので、先回りして最初の段階で話し合い、了承させなければ効果がありません。またこれらの設定を可能にする、あるいは解除させないためには、パスワードを親が管理する必要があります。

ところで、インターネットの契約をしながらも、同じキャリア内であれば、メッセージのやり取りが可能なサービスがあります。全て拒否する設定も可能ですが、例えば au における C メールのように、本文に電話番号や URL 表示があるものは受信拒否することができるサービスもあり、迷惑メール対策としては画期的と言えます。親子間の連絡に使うことが目的ならば、あえて E メールに接続する必要はなく、このような対策のしっかりしているサービスを選択するのも一案です。

私たちは、各キャリアに対して、今後は電話番号や URL つきの E メールについても受信拒否できるような選択を可能にする、子どもにとってだけでなく、迷惑メール撲滅のための有効な対策がとられることを強く要望します。

(注4) ドメインとはメールアドレスでは @マーク以降の部分指す。

### 4. Webへの接続どうチェック？

携帯電話は普段子どもたちが接している世界とは全く異なる、いわば大海原に続くツールです。「うちの子だけは大丈夫」と、親は根拠のない安心感を持っているものですが、それは禁物。子どもの好奇心はある日突然芽生え、そのようなスキルをあっという間に身に着けるものです。今後は、ますます携帯電話でインターネットサイトの閲覧が可能になり、両者の垣根がなくなってくる。

前述の通りフィルタリング、レーティングなどで有害情報を遮断しやすく、また親の目が届きやすい所に置くことが可能なパソコンより、場所を選ばない携帯電話からアクセスする方が、子どもにとってはより安易、かつダイレクトであるということです。子どもたちにとっては、有害サイトに簡単につながるまさに「どこでもドア」といえるでしょう。

親としてはこのような現実に関心を持ち、もしインターネットへのアクセスが可能な携帯を与えるのであれば、子どもが削除を覚えるまでの期間の時限措置ではありますが、定期的に URL 履歴をチェックし、問題のないサイトかどうかを確認する、またたとえ問題のないサイトであったとしても、それについて話し合いトラブルに巻き込まれないためのネチケットを身につけさせる機会を作ることが大切です。

現時点では、インターネットプロバイダー協会から携帯向けのフィルタリングソフトも提供(注5)されています。キャリアによっては一定のアクセス制限をかける同様のサービスもあります。また、今後そのような機能を強化した、子ども向け携帯電話も次々と発売されるでしょう。しかし、大切なのは、与えっ放しにせず親が常に関心を持ち、状況によっては瞬時にストップをかけられる知識と情報を持つことだといえます。

(注5) <http://www.iajapan.org/rating/press/20030707-press.html>

## 5. チェーンメールという遊び

事業者が不意打ちで送りつけてくる迷惑メールを中心として述べてきましたが、もうひとつ注意をしなくてはならないのが、

チェーンメールという遊びです。

これは、私たち親世代であれば不幸(幸福)の手紙を思い浮かべて頂いたらよいと思います。先日友人から送られてきたものは次のとおりです。

24 時間テレビの実験がスタートした為、突然すみません！ テレビ番組『鉄腕ダッシュ』でメールがどこまでつながるかを TOKIO が実験競争中だそうで、スタートが沖縄県那覇市の新垣洋介さんから始まって回って来ました。これを9人に、回して下さい。このチームは「城島チーム」です。この結果は 8/24 (日) PM7:00 からの「鉄腕ダッシュ」で放送されます。絶対に止めないで！」との事なのでよろしくです。

一見もつともらしいのですが、実際迷惑メールがこれだけ社会問題になっている昨今、このようなメールは全て嘘です。チェーンメールは複数の人への転送を義務付けており、事例のようなお遊び的なものから、URLを開くと願いが叶うなどとし、結局は出会い系サイトに誘引するという手法のものまでさまざまなものが出回っています。中には、生々しい強姦話を書き連ね、転送しないと同じ目にあうなどと恐怖心を誘うものもあるので、親自身が毅然とした態度でブロックしないとますます子どもを不安に陥れることとなります。

いずれにしても、情報を信じてアクセスして個人情報を入力したり、あるいは複数の友人へ送ってしまうことで、個人情報の流出や、有害サイトへのアクセスなどの被害を拡大させる手助けをすることになります。日頃から、親子でこのようなメールの情報を共有したいものです。

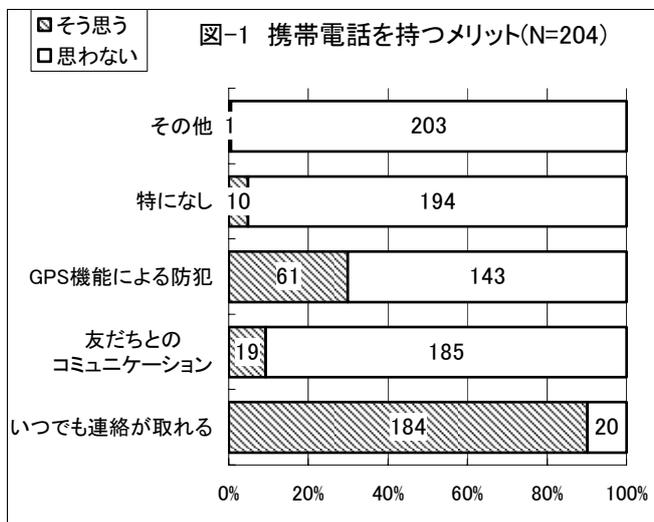
## II. メール中心のコミュニケーションが生み出すトラブル

子どもは思春期になると、保護者など大人からの影響よりも友人関係に強く影響されるようになります。携帯電話の使い方についても、小学生の間は親子の間での連絡が主であることに対して、中学生になると友人関係を築くツールとして活躍することが多いようです。

### 1. 携帯電話が時間を奪う～メール依存症

携帯電話は、ポケットに入れてどこにでも持ち運べ気軽に連絡が取れるとても便利なコミュニケーションツールです。私たちのアンケートでも、携帯電話を持つメリットとして、実に90パーセントの人が「いつでも連絡が取れる」ことをあげています。

(図-1)



しかし、いつでもどこでも連絡できるはずだという意識こそ、逆に、連絡が来ないとそれだけで信頼関係が壊れたかのように感じてしまう原因となりうることをしっかり心に留めておく必要があります。

携帯電話会社が迷惑メール対策のため一

日の送信メール数を1,000件に制限したところ、複数の女子高生から「メールが送れなくなった」という苦情が来たそうです。つまり、彼女らは普段から一日に1,000件以上もメールを送信していたこととなります。メールの内容は、ごくごく単純なもので「おはよう」「またね」というような一言が多いようです。しかし、携帯メールでのやりとりで友人関係を保っていると感じているため、返事を返さないわけにはいかず延々と打ち返してしまうのです。

いつでもどこでも連絡が取れるという意識が、少しの間メールが来ないだけでも相手に嫌われたように感じさせたり、来たメールにはすぐに返信しなければという強迫観念をもたらすようになります。その結果、食事中や、目の前にいる人と会話をしている時でもおかまいなしにメールをしたり、やるべきことそっちのけで携帯メールに没頭してしまうのです。

携帯電話を片時も離せなくなると、メール依存症だといえるでしょう。「ほんの少しのつもり」が積み重なり、子ども自身が時間をどれくらい浪費しているのか自覚できなくなってしまいます。

### 2. メールでの悪口

当然のことながら、携帯電話では相手の顔が見えません。面と向かってはいえないことも簡単に言えてしまうというメール特有の特徴があります。それは、謝りにくいことを謝ったり、恥ずかしくていえない素直な気持ちを表現するには良いツールかもしれません。また、内気な子どもが他との

窓口を開くきっかけになるなどの良い面もあります。

しかし、顔が見えない分、悪く書いたつもりではなくとも悪意に受け取られ、誤解を招くことも少なくありません。ある小学校では、パソコンでメールの仕方を教える授業の際に、一人の子どもが「おまえ、くさいぞ」というメール文を送ってしまいました。相手は、普段から仲良しの友だちだったので、いつものふざけた調子で送ったといいます。しかし、受け取った子どもは、そのメールの文字を見て大変に傷つき腹を立てました。

メールの文字は顔の表情や声の調子は伝えることができません。私たちのコミュニケーションは言葉よりもむしろ、ボディランゲージや顔の表情など視覚から得ることのほうが多いのではないのでしょうか。文字だけの伝達方法には限界があることを、折に触れて伝える必要があります。

それだけでなく、メールには現実感が乏しくなるせいか、面と向かってはいえない罵声や中傷も平気で書いてしまったり、また、それを別の友だちに見せることが可能であるため、ますます友人関係を崩してしまうこともあります。今ではどの機種にも搭載されているカメラ機能を使って勝手に写真を取られ、それをメールで回覧して笑いものにするというような陰湿ないじめに発展するケースもあるようです。

### 3. 交友関係どうチェック？

固定電話と違い、携帯電話では子どもの交友関係が見えなくなってしまう、トラブルに巻き込まれていることに気が付きにくくなってしまいます。最初の段階では、メールを見せることを約束事にするのは大切なことです。携帯でその都度確認するのが大変であれば、あらかじめメールの自動転送を設定するという手もあります。

パソコンにきたメールをリアルタイムにチェックするために、携帯電話のアドレスに自動転送する設定を行っている方も多いと思いますが、これはその逆の設定になります。残念ながら現在のところ au、Tu-Ka におけるサービスに留まっていますが、比較的簡単に設定することができます。ドコモやボーダフォンは対応していません。

余談ですが、パソコンでは殆どこのような設定が可能です。一部ヤフーのフリーメールサービスなどでは、転送設定すると元のアドレスにはメールが残りませんが、通常は受信したメールを残しつつそのまま別のメールアドレスへ自動的に転送することが出来ます。行きすぎた管理は子どもとの信頼関係を崩すことになりませんが、初心者のトレーニング期間であれば、ネチケットをチェックする有効な手段ではあります。

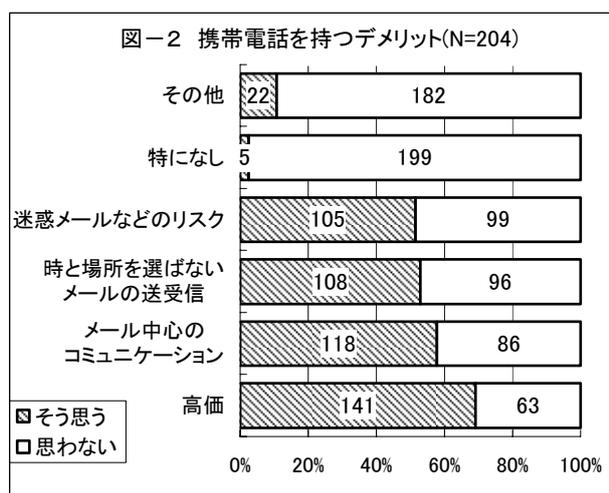
## Ⅲ. 料金について ～料金をもとに携帯電話の使い方を考えよう

携帯電話を持たせるにあたって、懸念されることの一つに料金の問題があります。

私たちのアンケートでも、全体の 69 パーセントの人が携帯電話を持たせるときのデメ

リットとして「高価なものである」ことをあげています。(図-2)

料金を考えることは、携帯電話の使い方を教える時に小学生にとって一番わかりやすい方法でもあります。



一部のキャリアでは、通話だけでなく、メールやインターネットのアクセス先についても簡単に明細が見られるサービスも提供されています。

携帯電話の料金がどのように加算されていくのかを確認することで、どのようなことに注意しながら携帯電話と付き合いしていくのかを考えるきっかけにしてみましょう。

## 1. 通話料

携帯電話の単位時間当たりの通話料は、相手の電話の種類(一般電話・携帯電話など)、曜日や時間帯(平日・休日、昼間・夜間など)、地域(営業地域か否か。関東・関西などのくくりが多い)によって設定されています。それを基本にして、各種のパッケージサービスなどにより割引されていきます。どのような条件で割引があるのかは各社ごとに違いがありますが、基になる料金の計算の仕方は同じです。

## 2. パケット料

メールや Web などのパケット料金は、開く画面の情報量(バイト数)を基に算出されます。半角文字 1 文字で 1 バイト、全角文字なら 1 文字で 2 バイトです。1 パケットは 128 バイトで、文字だけであれば全角 64 文字に相当します。画像や音声はさらに情報量が多くなります。例えば、メールに静止画を添付して送ると、10K バイト以上になり(1K バイト=1000 バイト)、約 23 円かかる計算になります(docomo mova の場合)。また、キャリアによっては、送信だけでなくメールを受信する際にも料金が発生する場合があります。

インターネットでもメールでの計算と同様、静止画像をダウンロードすると約 10K バイト、着信メロディなら約 15K バイトの情報量になります。

### 例えば着メロを一曲ダウンロードすると...

《docomo mova の場合》

i メニュー→かんたん検索→アーティスト・タレント→アーティスト情報→検索条件を入力→TUTAYA ONLINE→着信メロディ/うた→曲名入力  
→プレミアムメンバー登録→メールを送信→メールを受信→URL で登録→メールマガジンの配信指定→登録確認画面  
→HOME→着信メロ→楽曲検索→タイトル検索→曲名入力→曲名一覧→ダウンロード→保存(\*ダウンロードした曲を保存する時にはパケット料は発生しません)

実際にダウンロードするためには、希望の着メロを探すのに 7 ページを開き、メンバー登録に 6 ページ、ダウンロードに 7 ページの開示が必要でした。  
TUTAYAONLINE への登録料(210 円)と共に各ページを開くたびにパケット料金(合計約 220 円)が発生し、最終的に一曲のダウンロードの料金は合計で約 430 円でした。

パケット料は「開いた画面の情報量」毎にかかりますので、着信したいものを探すためにページを開くごとに、そのページの情報量に見合ったパケット料が発生します。

パケット料が発生しているかどうかは、インターネットに接続しているマークにより識別できます。それに加えて、有料サイトであれば登録料が別にかかります。パケット料を節約するためには、よく開くページをブックマークに登録して、開きたいページがすぐに開示できるようにするなどの方法も有効です。

キャリアによっては、定額制でパケットがいくらでも使える料金の契約にすると、パケット料金を気にすることなくインターネットが使えます。しかし、前述のとおり

インターネットを携帯電話で気軽に使えることの弊害は、料金に換算できないほど多大なものです。

利用金額が上限を超えたら、発信がストップされるサービスを行っているキャリアもあります。料金の仕組みを知り、どのような使い方をすることが携帯電話とうまく付き合うことに繋がるのか、子どもと一緒に考えるきっかけにするために、あえて使い放題の定額制にはしないことを提案します。

#### IV. まとめ ～携帯電話は安全グッズか～

##### 1. 無関心にならない

以上のように、子どもと携帯電話の問題について述べてきましたが、重要なことは子どもの携帯電話に無関心にならないということです。また携帯電話会社のさまざまなサービスについても、ホームページなどで時々チェックする必要があります。

私たちはすぐ連絡が取れる安心感やGPS機能により子どもに携帯電話を与えることで、安全を買ったと考えているかもしれません。

しかし、迷惑メールは不意打ちで、直接子どもに魅了的な言葉を囁きます。メール依存症などの生活リズムやコミュニケーショントラブルの問題もあります。小学生が「MY 携帯」は持つべきではないと私たちは考えますが、それでも持たせる必要性が出てきた場合は、子どもが危険にさらされないために、最低限の保護者の知識と丁寧な子どもへの教育が重要と言えます。また

今後年齢があがって持たせる必要性が出てきたときには、ビギナーである最初の数ヶ月に親がしっかりとしたマナーや管理を徹底させることで、「どこでもドア」をコントロールできるスキルを学ばせることが出来るのではないのでしょうか。

##### ＜やむなく持たせる場合の対処法

##### ～最低限これだけは～

1. 携帯電話と充電器はリビングに置く。
2. メールやインターネットを、定額で使い放題になるような料金体系にしない。
3. 迷惑メールやチェーンメールについての情報を共有する。

モバイル社会研究所の行ったアンケート結果によれば、小学生4年から高校生3年までの携帯電話保有率は、小学生 24.1%、中学生 66.7%、そして高校生に至っては 96% が携帯電話あるいは PHS を保有（2005 年 3 月実施の子ども向け調査—モバイル社会白書 2005 より抜粋）していると驚くべ

き数字も出ています。これほどまでに携帯電話が子どもたちの間で浸透している現在、今後も低年齢層へのさらなる普及は避けて通れません。

前述した高校生の携帯電話所持率 96 パーセントというデータは、逆の言い方をすれば高校生を対象とするマーケットは飽和状態にあるということです。今後、キャリア各社はマーケットの対象を子どもと老人に絞り、シェア拡大を狙いさまざまなサービスを提供してくるでしょう。実際、子ども向けの新しい機種が発売も予定されています。子どもに持たせるのにより適した携帯電話が発売されることは喜ばしいことではありますが、それを持たせるだけで万全の安全を買ったつもりになり、子どもと携帯電話の間に起こっているさまざまな出来事に無関心になることのないよう、保護者として常に目配りする必要があるのではないのでしょうか。

## 2. 消費者として賢い選択を

2006 年よりナンバーポータビリティが導入されます。これは電話番号を変更せずに、別のキャリアに契約変更が可能になる

**Cafe  
Break**

～失うのは、お金？それとも・・・～

中学 2 年になって、漸く携帯電話をゲットし部活やクラスの仲良したちの携帯の輪にやっと入れた姪っ子。嬉しくて嬉しくて仕方なかったのでしょうか。料金の請求がきてビックリ。「45000 円！！」激怒した姉は、こつこつ貯めていたお年玉預金を下ろさせて、本人に全額支払わせました。ところが、周囲の友達たちは、「え～、なんでパケ放題にしないの？」と言った反応だったようで、そのことにも姉はととても驚いたそうです。

それ以来姪っ子は、ウェブにはなるべく繋がらないとか、メールの返信は短めにするなど、涙ぐましい努力をしているようです。私がふざけて時々デコメールや写真添付でメールを送ると泣きそうになっていますから。

ところで、「なんでパケ放題にしないの？」と言った友達の一人が、出会い系の掲示板で知り合っただけで家出してしまったという後日談もあります。決して問題のある生徒ではなかったようです。そんなこともあり、今でも姉は絶対にパケ放題にはさせないと息巻いています。(平)

という消費者にとって画期的な制度で、キャリア間の競争をますます激化させるとされています。私たち消費者はこの制度を追い風に、購入時だけではなく、普段から各キャリアのサービスに関心を持ち、使い勝手やその有効性について情報交換を活発に行わなくてはなりません。なぜなら、ナンバーポータビリティ制度によって、子どもの安全を脅かすような、有害サイトや迷惑メールの対策がしっかりとれていないキャリアに対して、いつでも NO の意思表示を行えるようになったのですから。

(2006.3 月)

### 【 参考文献 】

『ケータイ・リテラシー』下田博次 NTT 出版  
2004 年

『モバイル社会白書 2005』モバイル社会研究所  
NTT 出版

### 【 参考ホームページ 】

<http://www.au.kddi.com/index.html>

<http://www.nttdocomo.co.jp/>

<http://www.tu-ka.co.jp/tokyo.html>

<http://www.vodafone.jp/top.htm>

[http://www.tomy.co.jp/first\\_mobile/](http://www.tomy.co.jp/first_mobile/)

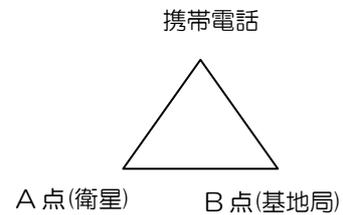
## GPS機能について

子どもの位置を確認する目的で付けられる GPS 機能。私たちのアンケートでも、全体の 30 パーセントの人が携帯電話をもつメリットとし、また、これから持たせたい人の中の 33 パーセントの人が欲しい機能としてあげています。(19 ページ 図-1)

GPS 機能は、基点となる衛星あるいは基地局のうちの二点の距離と、その二点と携帯電話の角度から三角測量をして位置を確定しています。

### ※ 三角測量

三角測量とは長い距離を正確に測量するための測量法です。三角法の正弦比例の法則を応用したもので、三角形の 1 辺の距離と、その 1 辺の両側にある角度から、他の 2 辺の長さをもとめることができます。携帯電話の GPS 機能は、2 点の衛星や基地局との距離と携帯電話を結ぶ角度を求めるとで、携帯電話の位置を確定しています。



正確な位置情報を得るためには、何度も基点を確定しなおしそのつど計算する必要がある、ずっと電源が入っていると自動的に計算しなおしてより正確な情報を提供することができます。しかし、電源を入れた直後はどうしても精度が悪くなったり、電車やバスなど高速で移動している時には、たとえ電源が入っていても正確な位置情報を得ることが難しくなるのが現実です。さらに、携帯電話の電源を切ってしまうと、切れた時点で情報がそのまま残り、いつまでも電源を切った場所で止まってしまう。また、携帯電話をどこかに置き忘れるなど、本人が常に携帯しているとは限りません。

以上のこともふまえた上で、GPS 機能に頼りきらないようにすることが重要です。子どもの位置情報に少しでも違和感を持った時には電話をして連絡を取ってみるなど、GPS 機能は安全を確認するための一つのツールであることを忘れないようにしましょう。

2004 年 11 月に奈良で起こった女兒誘拐殺人事件は、一年以上たった今でも私たちの脳裏に鮮明に焼きついています。携帯電話を持たせているから、GPS 機能がついているから安全だと考えてしまわずに、親の安心は安全とイコールとはいえないことを、常に頭においておきたいものです。